

※文字の大きさは MS ゴシック /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、適宜文章中に挿入してください。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No.

エントリー名： 沖縄県 那覇市立城北中学校

活動名： デジタル・シティズンシップの醸成 ～学校全体の対話によるガイドラインの創造～

解決すべき課題： 1人1台端末の生徒の活用方法

共有 → 対話 → 創造

しかし!!

Q1.子ども達の端末の使い方で困ったことがあるか?
 95% (困った) / 5% (困らない)

ゲームなど目的外の利用 / 不適切なサイトの閲覧 / SNS上の誹謗中傷

GIGAスクール構想によって、学習用に配布されている1人1台端末は、生徒の**学習**に欠かせないものとなっている。

トラブルや**問題行動**が生じているのも事実!
 →本校の95%の職員が困ったことがあると回答見かねて、一時的に利用を停止したことも・・・

目標： 生徒自身で納得解を創り上げる取り組みを通して**デジタル・シティズンシップ**を醸成する。

学級活動と連動した生徒会活動により一人一台端末ガイドラインの策定

- 既存のガイドラインを他校から持ち込むのではなく・・・
 →生徒の声を拾い、その声を支持的な風土の下で具体化させ、ガイドラインの在り方を主体的に模索していく。
- 大人が一方向的に決めるのではなく・・・
 →情報の**収集**と課題の**分析**及び**把握**、原案の作成、学校への**提案**、**評価**と**修正**を生徒主体で展開する。

活動内容： 1人1台端末ガイドラインの策定の流れ

1. 生徒の問題意識から「真正な課題」を設定

- 昨年度末に行われた委員会活動の振り返りの場面で、1人1台端末の活用方法に問題があることが取り上げられる。**(問題発見)**
- その解決策として、「自分達で端末の利用に関するガイドラインを創る」といったアイデアが生まれる。

2. 職員とのビジョンの共有

- 職員同士の**情報共有**の場を、年間を通して設定し、本実践を**学校全体**で行うものと位置づける。
- 資料は、共有ドライブにまとめ「いつでも」「誰でも」確認できるように!

3. 生徒自身による情報の収集

Google フォームを活用し、**生徒・職員**を対象に実態調査

- 生徒自身でフォームの作成や質問項目を決定し、教師は、ファシリテーターとして関わる。
自分たちの力で実施することに意味がある!
- 学校の中だけで子どもたちの世界が終わらないように、公文にQRコードを添付し**保護者**にもアンケートを実施

○情報は与えられるものではなく、自分たちの力で得るもの→当事者意識の高まり

4. 実行委員の生徒同士の対話により、多角的な視点から課題を分析

生徒	先生	保護者
動画にコメントする (人が気づく目的のため)	学校でゲームをしている	返信時間が長い
人のアカウントを乗っ取る	元の場所に行けない (倫理教育を学ばない)	スマホに勝手にアプリがインストールされる
誹謗中傷 (相手の名誉を毀損する)	Win-Bitの悪用をつく	セキュリティに気づかない
学校で授業を休んでいる	授業中に授業のいいことをしている	SNS上のトラブルで悩んでいる人がいる
悪質なサイトを見る (スクリーン)	フィルターを解除する	情報リテラシーについて理解していない
スクリーンで遊んでいる (授業中の授業時間)	監視に気づかれない	学習アプリを盗用できている

- 分析するのも、もちろん生徒!
 →50名の実行委員が、話し合いによって生徒・職員・保護者のそれぞれの立場から「優先して解決すべき課題」を18個に選定!

○立場によって課題が違うことに気付く→生徒も学校全体で解決すべき課題として認識

5. 実行委員の生徒+全職員の対話により、解決策を模索
 →夏休みに徹底的に議論 (思考ツールを活用し、**ガイドラインの原案を作成**)

- 課題の特性の理解
- 課題解決の優先度の検討
- ガイドラインの構想

- Yチャートを用いて「安全」「責任」「他者への尊重」の三つに分類
- ダイヤモンドランキングを用いて、早急に解決すべき課題を決定
- キャンディーチャートを用いて「～しない」といった制限的なルールを考えた後、「～する」といった前向きな約束事にリフレーミング

6. 一斉学級会により、全生徒でガイドラインの原案を現実に即したものに修正

- 司会団を結成し、**学級活動と生徒会活動の連動**を実現
 →学級会の**準備から運営まで**を生徒が行う (自治的な活動の推進)
- 各クラスで最も大切にする約束事を話し合いで決定

○それを集め、城北中学校オリジナルの1人1台端末ガイドラインの完成!

取組の過程： どのように周りとの協働したのか

生徒と職員の 組織づくり と 協力体制の構築	生徒指導主事との連携 (積極的な生徒指導)					
<table border="1"> <tr> <td>生徒組織 (実行委員会)</td> <td>生徒会総務・中央委員 各種委員長・団長</td> <td rowspan="2">主役は生徒!!</td> </tr> <tr> <td>職員組織 (策定委員会)</td> <td>管理職・教務主任・情報主任 GIGA担当・生徒会担当 生徒指導主事・PTA会長</td> </tr> </table>	生徒組織 (実行委員会)	生徒会総務・中央委員 各種委員長・団長	主役は 生徒!!	職員組織 (策定委員会)	管理職・教務主任・情報主任 GIGA担当・生徒会担当 生徒指導主事・PTA会長	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導のイメージの転換! 叱る生徒指導ではなく・・・ →子どもに活躍の場を与え、褒めて認め、良い文化の形成を促していく。
生徒組織 (実行委員会)	生徒会総務・中央委員 各種委員長・団長	主役は 生徒!!				
職員組織 (策定委員会)	管理職・教務主任・情報主任 GIGA担当・生徒会担当 生徒指導主事・PTA会長					

職員が様々な側面から生徒の取り組みを支援

活動の成果： 生徒の変化 (事後調査の結果)
 真正な課題の解決に向けて生徒主体の取り組みをチーム学校として推進することで・・・

「この取り組みを通して、1人1台端末をより**善く**使おうとする意識が高まりましたか?」 (全校生徒 N=345)
 →とてもそう思う+そう思う⇒肯定的な回答が**94%**
 1人1台端末の課題を**自分事**として捉えられるように!

- とてもそう思う (33%)
- そう思う (61%)
- どちらでもない
- そう思わない
- 全くそう思わない

○本実践が生徒のデジタル・シティズンシップの醸成に寄与していることが示唆